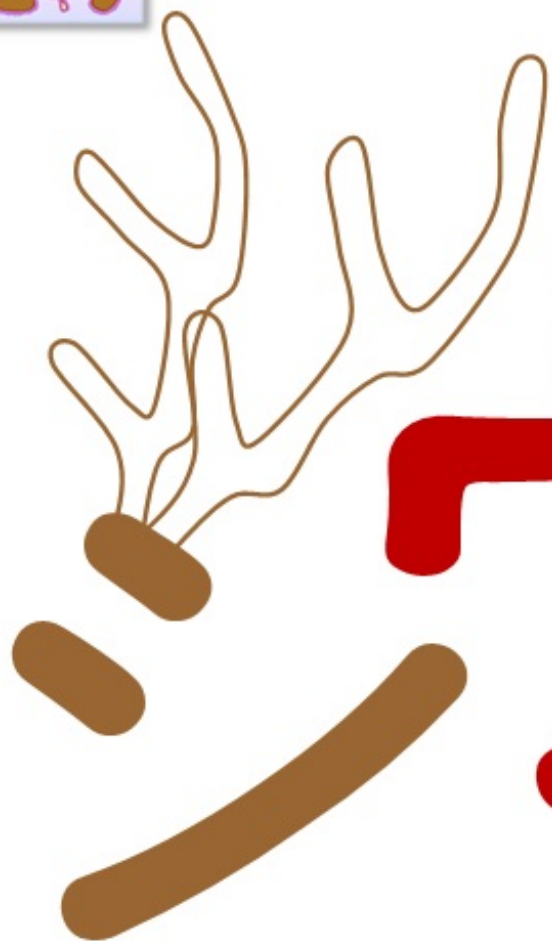




第四十七回

『先ず隗より始めよ』と読解力

考



え



欲

しいのは、

コレだろ？

弦楽器イルカ ⇔ 友人



「俺はまた、キミを超えられなかった」

「...嫉妬してるのか？」

「違うよ。いや、嫉妬してるんだとしても、それはメダルの色なんかじゃない。俺は、フィギュアに嫉妬してる」

「...え？」

「俺にとっては、メダルの色なんて興味ない。ただキミに憧れて、その背中に追いつきたくて、必死で見つめて、追いかけて来た。

でもキミは、キミの瞳にはフィギュアしか映ってない。俺なんて、全然、眼中に入ってもない。だけど、もし一度でも、キミを追い越して、その前に踊り出れたなら、キミは俺に気づいてくれる。俺を見てくれる。その瞳に見つめられたい。メダルなんかじゃなくて。でも、やっぱりまた、俺はキミを超えられなかった」

「...そんなバカな理由で」

「バカってなんだよ！」

「俺がお前を見てないなんて、そんなことあるか。あんな瞳で見つめられて、追いかけてられて、意識しないワケないだろ。俺は、お前に憧れられる存在でいたかっただけだ。俺だってメダルなんかよりも、ただお前に失望されるのが怖くて、俺をずっと追いかけてくれるのが嬉しくて」

「まさか、そんな」

「...バカだな、俺たち」

「世界で一番と二番に、バカな二人だね」

っていう。

こっから一気にあんま明るい話じゃないよ。

最近の新書で気になるのが二つあって、この国が人口減でどう衰退してくかと、この国の子供たちの読解力が劇的に悪化してるのを、客観的に検証した本がすごく売れてるらしい。

昔言ったかもしれないんだけど、俺は「先ず隗より始めよ」って言葉がすごい好きで。このウマシカだっておこがましくも隗の精神でやってるし、俺の座右の銘かもしんない。

でもこの言葉を古文で習ってからずっと疑問で。だって隗って一步間違えばただの詐欺師じゃん。もし隗が私利私欲の塊だったら、何言ってんのかいじゃん。

そこで読解力が必要になるんだよ。詐欺師に騙されないように。

今まで人文学は役に立たないってバカにされたりしたけど、現実には騙されないよう生きるために実はすごく重要な分野だ。

例えば読解力さえあれば、子供たちの読解力が低いのは教育に失敗したからじゃなくて、むしろ

る権力層にとって都合の良い教育が成功してるからだってウマシカな読解もできる。

もちろん権力層にとって、言われたことに疑問を持たない読解力の乏しい国民をたくさん作れば、何かと役に立つだろう。

あるいは、少子化対策には子育て世帯を税金で支援する取り組みが必要だけど、ただでさえ減少してる税金を権力層の分け前が減るような政策に手は付けないだろう。

ウマシカな読解力さえあればすごく単純な理屈でも、トイ神教育が徹底された国民は本質から目を反らすようにしつけられてるんだろう。

たとえば、「トリクルダウン」ってまさに隗を悪用したような詐欺用語だと俺は思ったし、確認の意味でウィキみたら、この国の政府がはじめは「トリクルダウン」って詐欺を信じ込ませようとしたけど、失敗したから急に否定し始めた過程が載ってて、ちょっと驚いた。国民の読解力を低下させればそういう詐欺で権力層だけが儲ける政策も可能になる。

あと、信派の自由とか、右も左も宗教だって話も前にしたけど。

「カラスは白だ」っていう信仰と、「カラスは赤だ」っていう信仰を持つ信者それぞれに向かって、「カラスは黒だ」って道理を説明しても通らない。「だって白は白」「赤は赤だから」って盲信に理屈は通用しない。

でももちろん、信教の自由は認められているし、多様性が種を繁栄させるキーの一つだし、そしてなにより、合理的な判断が必ずしも幸福につながるワケではないから、各自が誇りをもって右教、左教を信仰すればいいと俺は思う。

ただ右教や左教の信者は、自分には理屈が通じないことをカミングアウトするか、公平な議論の場に信仰という嘘を持ち込まないのがフェアだと俺は思う。

なぜならば、理屈が通じない人間とは建設的な議論ができないからだ。全てのカラスを本当に白く染めるか、すべての人間を力でねじ伏せて白と認めさせない限り、公平な社会のカラスは黒だ。それでも議論を続ければ、互いの時間を無駄にするだけでなく、理屈では決着がつかず力で押し切ろうとする不公平な社会が生まれる可能性もある。

「理屈の通じない人間がいる」という道理を社会が理解して本人もカミングアウトすれば、議論しても仕方ないと諦めて、信派を認めるしかない。

それでももし、公平な議論の場で「カラスは白だ」という己の信仰を唱えたいのであれば、その嘘に自分が潰される覚悟を持たねばならない。

多様性を重んじる社会においては、暴力的な対立を避けるために公平性がある。その公平性を侵す嘘をついた人間は、公平な社会から自ら退場するか、公平な社会にとどまるために自らの嘘を認め罰せられるしかない。

そう考えると、この国の人々の読解力の低さは、もう公平性を保てないレベルかもしれない。

右教でも左教でもなく、理屈が通じるだけの読解力を有する国民が、この国にあと何割残っているんだろうと思う。

それはもちろん、俺らみたいなウマシカじゃなく、もっとまともな国民がね。

なんでこんなこと書いてるかって話なんだけど。

前にも言ったけど、自分が名誉校長を務めてる学園の園児に「首相頑張れ」って応援されて、感動して泣いてる動画が出た時点で、既に詰んでるんだよ。並の棋士ならとっくに投了してる。

実際、旦那である首相も国会で「幼稚園で言ってほしいとは思わないし、適切とは思わない」って答弁してる。だから本来は誰も彼女を擁護できない。

当然だが、園児は言わされてるだけだ。公平性を掲げる民主主義国家において、特定の教えを園児に刷り込む施設は違法であり虐待行為だ。それを目撃したら恐怖を感じたり、少なくとも違和感を持つのが、読解力のある公平な人間だ。

園児が「首相頑張れ」と言うのを見て感動して泣いている人間は、読解力に乏しく理屈の通じない不公平な人間だ。合理的に一言で言えば、まともじゃない。

そして前にライダー理論の話もした。怪人が出てくれば、絶対にヒーローは現れるって理論。

まともじゃない人が中心の事件だから、あとは何が起こっても全然不思議じゃない。むしろ何も起こらない方が不自然だ。だから秘書が勝手にやったとか、価格の交渉はあるようでなかったとか、不公平な答弁がどんどん出て来る。

それもこの国に読解力さえあれば、そもそも議論する価値がない話だろう。この国の国会は、詰んでも投了しない政治家とそれでもまだ将棋を続けようとする議論で、いわば王がない将棋に途方もない税金を使い続けてる。

でもその税金は多くの国民にとって無駄に思えても、権力層にとっては儲けになるから改められることもない。

俺みたいなウマシカが権力層だったら、読解力に乏しい国民をたくさん作って、「今税金をたくさん払っておけば、将来は安い税金で済むよ」とか嘘ついてガバガバ徴取するね。更に「戦争を防ぐための戦争」って論法で、バカな国民を自分の懐を温めるための戦争に逝かすよ。

「将来の戦争で死なないように、今、戦争で死のう。今死ねば、後で死ななくて済む」って詐欺が正論としてまかり通る時代が、今でしょ。近い将来じゃなく、もう今それが来てる。

この国の読解力と公平性が試されてるけど、量産型トイ神層を製造するこの国の教育に希望は持てない。せめて自分の身を自分で守るための読解力を磨いて、公平さを踏みにじられないような生き方を自分だけでも選択できる力を身につけるしかないだろう。



実はこっからが本題で。前置きが長くなったんだけど。

体温が上がるくらい、本当に腹の立つ記事があって。はらわたが煮えくり返るとはまさにこのことかっていう。

福島で子供の甲状腺検査にあたっての女医の記事が、ネットに二つあった。

一つは新聞記事で、「これまでの検査の結果がんを手術した人は、過剰な治療だったのか」という質問に対して、「そんなことはないはずですよ。がんの増殖傾向は「その確率が高い」という統計的な性質を示すもので、必ずしも全員のがんが経過観察でよいがんとも限りません。また、体からがんを取り除きたいと思うのは当然のことです」って言ってる。

そこまでは俺みたいなウマシカにもわかる話だ。

この同じ女医が、もう一つの記事ではこう言ってる。

「今年（2017年）の4月からは、たくさん子どもたちに向けての出前授業の中で、「検査で見つかることのある甲状腺がんは、もしかしたら検査をしなければ一生気づかずに過ごしたのものかもしれない」というお話はしています」

「福島で行われていることと同じ検査を、他県でやってもらったら、たしかに福島と同じようにたくさん甲状腺がんが見つかるでしょう。そして、同じようにたくさん子どもたちが手術を受けることになるでしょう。そして、「福島で今見つかっている甲状腺がんが放射線の影響で特別に増えているものではない」ということが証明されるでしょう。そういう結果を、私たち福島の住民が「それはよかった」って喜んで聞いてしまったら、福島の人々は、長い間に、とても大切なところで、さらに深く傷つくんじゃないでしょうか。

私は、説明会でそうお答えしています。「お母さん、そんな結果を喜んで聞いてしまったら、福島の誇りが失われるよね」って。そうすると、お母さんはじっと考えて、頷かれるんです。「先生、そうだね、福島の誇りが失われるよね」って」

「福島の子どもたちは大丈夫です。それが、私がはじめから信じて、なによりも守らなければいけない言葉です」

俺はこっから、今までにないくらいかなり強い言葉で書くから、覚悟してほしい。

「福島では過剰な治療が行われている。だから手術した子供たちに賠償金を数億円単位で払うべきだし、国や県は責任をとって必ず謝罪すべきだ」って主張なら、まだ「大丈夫」につながる。

あるいは、「福島で過剰な治療は行われていない。適切に手術されているので、甲状腺がんの多発には何らかの理由がある。もちろん原発由来で被害が出ている可能性もあるので、国主導の賠償や避難も検討するべきだ」って主張でも、「治療されているのと、賠償や避難で大丈夫」と、まだ理解できる。

だがこの女医が言ってるのは、「過剰な治療ではない適切な手術だから、関係する組織や自分も謝罪しない。もちろん子供たちに賠償金も支払う必要はない。

だが福島では一生気づかずに過ごしていたかもしれない子供たちの甲状腺がんが手術されている。他の県でも同じことをすれば福島の誇りが失われる」という、理屈の通らない完全な二枚舌であり、誇りという美しい言葉を人質に取ったモラル・ハラスメントだ。

しかも最後の「福島の子供たちは大丈夫」という言葉に明確な根拠はない。「信じて、なによりも守らなければいけない」という信仰を表しただけの、理屈の通じない単なる呪文だ。

他にも、自分が子を持つ母親であることを盾にしたり、検査を始めたのは仕方なかった、でもこれ以上する意味は何か、といった言い訳もしている。

だが前から言ってるけど、この甲状腺検査は元々、「福島では絶対に原発由来の健康被害は起こらない」という結論ありきで、それを証明するために始まった検査だ。それはこの検査を始める前に、組織の代表者が公的な発言として残している。実施の前に安全神話という結論が出ており、しかもどれだけ被害が出たら異常かという設定値もないから、だったら検査を実施する必要性ははじめからなかった。

更に御用会議では、転移した子供たちもたくさんいること、肺に転移した子供に対し御用学者の1人が、「少なくとも早期発見で助かった子供もいる」という趣旨の発言をしている。これも前に書いた。

この女医は、福島で200人近い子供の甲状腺がんに関する問題が起こったから、火消しと、自分の信仰のために二枚舌を使っているだけだ。

しかも理屈を語るフリをして、信仰という嘘を語っている。その信仰を自分の内に秘めるのではなく、行政を動かすために語っている。悪質かつ、狡猾だ。

どうしても信仰を語りたければ、まず初めに自分に理屈は通じない、自分は理屈ではなく信仰を語りたのだとカミングアウトするべきだ。

でなければ、一度傷ついた人々を、その嘘でもう一度傷つけることになるだろう。

そしてその嘘は、最終的に己の首を絞めるだろう。なぜなら、他人の人生を嘘で翻弄した責任を、必ずとらねばならない日が来るからだ。

そもそも、こういったモラル・ハラスメントや人権侵害が起きている現実に対して、この国の国民の多くは無関心だ。

「福島の子供は大丈夫」という呪文で国民全体に魔法をかけたいのかもしれないが、ほとんど誰の耳にも届いてない。みんな自分のことで精いっぱいだし、福島の子供に日常的に興味がある国民など、本当にごく一部だ。

その大丈夫には、せいぜい「そうやって自分に言い聞かせて生きていかないといけないなんて可哀想ね」と思われる程度の効果しかない。

読解力や公平性の前に、この国では被害者になったら負けだという大前提を、肝に銘じて生き

抜かなければいけない。

こういう二枚舌の信仰に巻き込まれないことが、自分の身を自分で守るために最も重要なことだろう。





考えるウマシカ～第四十七回 『先ず隗より始めよ』と読解力～

<http://p.booklog.jp/book/120815>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/120815>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト